

静岡県 御殿場市

平成十四年度全国生涯学習市町村協議会助成対象事業

第七回

生涯学習のつどい『いっしょにDONDON』

富士山の麓「御殿場」

静岡県の東側、富士山の麓にある御殿場市は標高四百五十メートル、人口八万六千人の富士山と箱根に囲まれた高原の街で、今年開催される「NEWわかふじ国体」では馬術競技の会場になっている。

これまで七回を数える

御殿場市では、二年に一度生涯学習のつどい「つどいはDONDON」を開催している。全国生涯学習市町村協議会の補助金を受けて今年の二月一日、二日に開催した第七回「つどいはDONDON」では、一日目に記念式典



お天気キャスター森田正光氏の記念講演



小山高ダンス部による生涯学習発表

で生涯学習推進功労者、広報紙コンクール入賞者の表彰を行い、お天気キャスターの森田正光氏が記念講演を行った。

二日目は各団体による学習活動の発表と「ハリーポッターと賢者の石」の映画を上映したほか、展示や学習体験コーナーを二日間にわたり行った。

内容的には他の自治体の生涯学習のつどいと大差はないと思われる。そこで御殿場市の生涯学習のつどいの特徴と思われるものを紹介する。

御殿場市らしさを生かして

まず、一つは地域づくり活動がこの「つどい」の柱の一つになっていることである。御殿場市には職員が常駐する公設の公民館はなく、「ミセン」や「公民館」と呼ばれる集会施設が行政区ごとに設置され、地域づくり活動の拠点となっている。御殿場市では、地域づくり活動主事育成の講座を実施流の場として「地域づくり活動のつどい」を毎年開催していたが、これが生涯学習のつどいに発展した経緯から、



展示コーナーの風景(地域づくり活動展示)

現在も地域づくり活動の発表の場としてこの「つどい」が位置付けられている。

もう一つは平成五年に発足した生涯学習ボランティアセンターの存在が大きいことである。生涯学習ボランティアセンターは、知識、技能を持った人たちが講師や指導者として市民の学習活動を援助しようとしてできた団体である。この「ボラセン」の会員が講師となっており、後期合わせて六〇講座、受講者は千人を超えるまでになった。今回も「つどい」の展示部門、発表部門にひらがり学習塾生が多数参加し、この「つどい」が盛大に開催できた大きな要因となった。

生涯学習のつどいを終えて

多くの自治体で行われている生涯学習のつどいは、どこでも企画のマンネリ化や、観客が少ないなどの問題を抱えており、御殿場市もその例にもれない。今回の「つどい」では、大ホールの発表部門に予想以上の参加申込みがあり、一団体あたりの持ち時間が非常に短かったにもかかわらず、出番を終えた出演者の表情は皆すがすがしく満足そうだった。ここに生涯学習のつどいの意味、原点があるのではないだろうか。

(御殿場市教育委員会社会教育課 中村信生)